

作品研究) 社会実装を目指した作品研究の報告 —作品「UKA: ウカ」についての報告—

Report on Research for Social Implementation of Artworks —Report on the Artwork “UKA”—

真島唄良々¹⁾ 狩野百音³⁾ 菊池信二²⁾ 西将隆²⁾
栗本佳典²⁾ 阿部高広²⁾ 富田知子²⁾

抄 録

本学専攻科2年間の学びと習得した技術を基に、人体表現としての作品「UKA」の制作をおこなった。大きなテーマは、アール・ヌーボーを基にした、曲線と生命の強さとはかなさの両面である。制作にあたり、衣装は狩野百音氏に依頼し、黒のレースに蝶やバラを配し、背中には羽を付け「かわいい」を意識したデザインとなった。最終的に、ヘアと衣装とモデル、撮影技術を含めて、コンセプトである「羽化」のイメージ表現が完成した。

キーワード: アール・ヌーボー アメリカンフラワー 蝶 薔薇 美容芸術

I. はじめに

今回専攻科2年間の学びで獲得した技術等を用いて、作品制作を行った。制作は1年次の「デザイン演習Ⅰ」でのアール・ヌーボーおよびアール・デコをテーマにデザインの持つ意味について学んだことを活かして、メイクデザインした。そのコンセプトをベースに「美容デザイン演習Ⅱ」および「美容芸術研究」において、人体表現としてさらにトータルな創作に着手した。創作にあたり、文化学園大学の衣装デザイナー狩野百音氏と協働で進めることとした。デザインコンセプトの協議を行い、デザインを完成させた。さらにイメージにあったモデルへの依頼とコンセプトの説明を行った。次に、写真指導の教員と協議する中でライティングについての設定をし、撮影を行った。

- 1) 美容デザイン演習Ⅰ: ここではアール・ヌーボーを選択し、メイクをウィッグに行った。(写真1)
- 2) 美容芸術研究: アール・ヌーボーを大テーマにおいた人体表現としての総合デザインコンセプトの構築にあたり、アイデアソースを収集した。
- 3) 美容デザイン演習Ⅱ: 作品を制作するにあたり、衣装デザインおよび制作は狩野百音氏が担当した。衣装デザイナーとの協議を行いコンセプトに沿ったヘアメイクデザインを作成した。

衣装デザインコンセプト: 可愛い=幼い→美=大人に成長していく様を表現

ヘアメイクコンセプト: ヘアでは大人っぽい黒と幼い感じを表現する白を使用し、美しさと可愛さを共存させるような工夫をし、複雑な構造で作った。

撮影にあたり、全体的に明るくなりすぎないように、斜光のメインライトにした。頭部の飾りに透け感がある蝶をつけていたので、逆光ライトで演出を加えた。この光が、全体ダークなイメージからキラッと明るいイメージへの演出になっている。

II. 作品紹介

作品の制作については以下の通りである。

1) 使用材料

J アイパレット (山野美容芸術短期大学教材)
J パレットリップカラー (山野美容芸術短期大学教材)
ウオンジョンヨ ハイライト
フラッターベイクドハイライター

2) 制作方法

ヘアデザインを構成するヘアピースは、黒と白2色の人工毛髪束を使い、籠編みの技法を用いて編み、それを扇形に広げて固め制作した。テーマを象徴する蝶やバラのパーツは、細い針金で、形を作り、アメリカンフラワー用の材料を用いて、膜を張る造形操作を行った。

3) モデルの毛髪の処理

モデルの毛髪はかなり長く、ゴールデンポイントに向けて襟足をすっきりと纏め、残った毛髪は三つ編みにして中心におろした。顔回には上昇の方向が生まれ、クールさを表現し、後頭部のおろした三つ編みで動きとかわいらしさの表現を混在させた。

1) MAJIMA Urara

2) KIKUCHI Shinji, NISHI Masataka, KURIMOTO Yoshinori, ABE Takahiro, TOMITA Tomoko

3) KANO Mone

山野美容芸術短期大学 1) 専攻科2年生 2) 教員

連絡先: 〒192-0396 東京都八王子市鍵水 530

3) 文化学園大学

4) ヘッドピース作品の取り付け方法

頭頂部の毛髪を三つ編みにしてしっかりとした土台を作った。そこにヘッドピースを、捻ピンを使用して固定した。

III. 考察と今後の課題

このヘアメイクを完成させて最初に感じたのは、世界観を最後まで崩さずにまとめられたという達成感である。今回はアメリカンフラワーを使い、透け感のある素材で大人っぽさや妖しさを表現することを意識した。重くなりがちな造形であっても、透けることで抜け感が生まれ、強さの中に繊細さや余裕を感じさせることができたと考える。また、全体を黒でまとめすぎないように、白を取り入れることで、やや可愛さや柔らかさも感じられるバランスを意識した。

また、衣装が黒を基調としていたため、ヘアだけでなくメイクでも重くなりすぎない工夫が必要であった。そこで、メイクでは「可愛い」をしっかり表現したいと考え、JE-BL00番やJE-PK02番を中心に、あえて甘さのある色味を多く使用した。黒い衣装と対比させることで、顔が沈まず、作品全体にメリハリが出たと感じている。目元は印象を強く残しつつも、色味や質感で女性らしさを意識し、近づいたときに可愛さが伝わるように仕上げた。

ヘアとメイク、衣装それぞれが主張しすぎるとまとまりがなくなるため、全体のバランスには特に配慮した。強さ・大人っぽさ・可愛さという一見相反する要素をどう共存させるかを考え続けた制作であったが、最終的に自分の中で納得のいく形に落とし込めたと考えている。完成した姿を見たとき、「今の自分だから作れた作品だ」と感じられたことが何より嬉しいことであった。

今回のヘアメイクを通して、ただ綺麗に仕上げるだけでなく、素材選びや色使いで感情や雰囲気コントロールできることの面白さを改めて実感した。大人っぽさの中に可愛さを忍ばせるというテーマは、自分の感性にも非常に合うもので、これからの作品作りにも活かしていきたいと考えている。

謝辞

制作にあたりご指導いただきました文化服装学院の森本慧先生、齋藤房枝先生、制作にあたりご協力いただいた文化学園大学デザイナーの狩野百音様、モデルの泉仁華様に心より感謝申し上げます。



写真 1a

写真 1b

写真 1 a.b: タイトル「UKA」美容デザイン演習 I でのアール・ヌーボーをテーマにしたメイク作品



写真 2



写真 3

写真 2: アメリカンフラワー用の針金の枠
写真 3: 膜を張った蝶のパーツ



写真 4

写真 4: 人工毛髪を使用した籠編みの技法を用いたヘッドピースのパーツ



